

大雨・台風シーズンの到来に備えて

日頃の備えと早めの避難が大事です！

6月10日、熊本県を含む九州北部地方が梅雨入りしました。6月と7月の雨の量を合計すると、1年間の3分の1以上がこの時期に降る計算となります。豊かな雨は、梅雨明け後の真夏の渇水を防ぎますが、時には大雨による災害をもたらします。特に近年では、梅雨明けまじかの7月に例年大きな災害がおきていますので注意が必要です。

防災会議で災害時の対応等について確認

町では、6月10日に消防団の各分団長をはじめ各区長や警察・消防関係及び県芦北地域振興局を交えて防災会議を開き、今年の気象の見通し、土砂災害警戒区域の指定、防災計画の見直しなどについて打ち合わせを行いました。このように町でも万全な体制でこれから大雨や台風に向けていきます。しかし、災害から身を守るのはあなた自身です。家の周りや地域の危険箇所を点検し、家族や地域ぐるみで安全対策を話し合っておきましょう。

また、非常用品の準備や避難する場所を確認するなど「**日頃の備え**」を万全にし、いざという時は、「**早めの避難**」を心がけましょう。

第3回土砂災害・全国統一防災訓練開催

6月1日、浜地区（新川・古川）の住民や地元消防団、建設業協会、警察、消防署などから約200名が参加して、「第3回土砂災害・全国統一防災訓練」が開催されました。当日は土砂災害を想定した避難所開設や避難誘導などのほか、防災講習会も実施され、災害時の役割分担などについて確認を行いました。



↑6月1日の防災訓練の様子。警察・消防団の協力のもと住民の避難訓練を実施しました。このように日頃からの備えが必要です。



↑講習会は県防災ボランティア協会の協力で実施

日頃からチェック！皆さん備えは万全ですか？

気象情報に気を配ろう

気象予報や注意報、警報などに気を配り、近所の方々などとも連絡を取り合いましょう。

家の周りの危険箇所を知ろう

近くの川や山など、洪水やがけ崩れなどの発生しそうな危険箇所を普段からチェックしておきましょう。また、自宅の窓や屋根など早めに修理補強を行いましょう。

避難方法などを話し合おう

高齢者や子ども、病人、体の不自由な人がいる場合は、地域の人たちが助け合って避難活動が出来るよう日頃から協力体制を築きましょ。

日頃、災害に備えて非常用品などを準備しよう

- ◆非常用品:非常食、飲料水、懐中電灯、ラジオ、ライター、救急用品、衣類、寝具、現金、通帳など（まとめてリュックなどに入れておくと便利です）
- ◆緊急連絡カード:自分の名前や住所、生年月日、血液型、家族と緊急連絡先などを記したものを作り、家族で携帯しておきましょう！